

小さくても**勝**てる

崩れるピラミッド[®]

グローバル化が進み、半導体のような最も開発競争の激しい分野でも日本の中小企業が黒子として活躍するケースが増えている。「海外大手から『この装置が必要』と指名をもらった」。台湾積体回路製造(TSMC)や韓国サムスン電子などの半導体工場に部品の搬

海外大手から指名

送装置を供給する第一施設工業(福岡県新宮町)の松村幸司社長は胸を張る。

半導体大手の競争力を左右する最先端の組み立て工程に対応する新製品を開発、2026年1月期の売上高は前期比52%増の102億円と過去最高を見込む。振動が少なく不良品がでにくい品質が強み。「大手の装置会社になんじて当社が受注した」(松村氏)

日本共創プラットフォームの富山和彦会長は「海外では取引関係は上下ではな

供給網、上下↓水平に変化



第一施設工業が半導体大手に供給する新型の搬送装置(福岡県新宮町)

協力を得て、中小が横並びで技術を磨く「護送船団」も珍しくなかったが過去の遺物になりつつある。

人手不足は商機

日本企業に共通する課題が人手不足だ。帝国データバンクの10月の調査では正社員が不足していると回答した企業は51・6%と半数を超える。人手不足を理由に倒産した企業は24年度に過去最多の350件に上り大半の企業は生産現場の人材確保に苦労している。

中小にとっては商機でもある。ソマックス(大阪市)は金型の洗浄機で省人化需要を取り込む。超音波で汚れを落とし、金属や樹脂を数千回プレスして油まみれになった金型を15〜20分できれいにする。汚れやさびを落とす洗浄液に秘訣があり、他社はまねできない。

周辺部品も委託

ため、中小と新しい関係づくりにも動く。

売上高の9割を三菱重工から受注するガスタービン発電用の燃焼機器部品などが占める松本製作所(兵庫県姫路市)は25年7月期の売上高が80億円と5年で倍増した。従来から請け負ってきた金属加工部品に加え、その周辺の部品や、溶接・表面処理といった加工を請け負うようになった。松本和樹社長は「三菱重工が10社以上に分けていた仕事を一括で請け負った」と説明する。松本製作所がミッドに代わる新モデルを探るヒントになる。